

三兄弟で目指す 国産れんこんの発展に向けて

J Aバンク茨城県信連では県内農業者・農業法人の持続可能な経営に向けた様々な支援を行っています。
今回は、霞ケ浦に面する稲敷市でれんこんを生産している「株式会社れんこん三兄弟」の代表宮本貴夫氏に話を伺いました。

○三兄弟で踏み出した農業への道

「株式会社れんこん三兄弟」は、稲敷市の農家のもとで育った貴夫氏・昌治氏・昭良氏の三兄弟が役員を務める農業法人。兄弟で農業を始めたきっかけについて、「高校卒業後はそれぞれの道へ進んでいましたが、とあるきっかけで実家や家業（農業）の将来について三兄弟で話し合いをすることとなりました。そこで、家業である農業を事業化しよう、三人で農業をやろう。兄弟三人揃えば出来る。と意見が一致したんです。」と話してくれた。平成22年の法人設立後は、三兄弟それぞれの得意分野を活かしながら、質が高く安定的な生産を心がけてきた。今では44ヘクタールの生産規模を誇り、当社が作るれんこんは地域のスーパーをはじめとした様々な飲食店で取扱われる人気商品となっている。

れんこん三兄弟 RENKON 3 KYODAI



○長期事業目標を達成するために

法人設立後は順調に事業を進めていたが、様々な農業者や業者と接するうちに、段々と農業全体の停滞感を感じはじめていた。「農業の将来性や稲敷市という地域柄を考えた時に、今のまま事業を進めても、れんこん、そして農業に魅力を感じてもらえないのでは、と考えました。」危機感を抱いた三兄弟は、事業を拡大するための長期事業計画を策定。令和15年度までに売上高11億円という大きな目標を立て、達成に向けて何に取り組みめばいいのか、何度も考えた。

その一つが、「出荷場の建設」だ。「父親の代から使用している出荷場がありましたが、売上目標を達成するために必要な出荷量に対してキャパシティが不足していました。」早い段階で事業構想を開始し、メイン行である当会へ事業内容を共有。資金支援を受け、令和7年度に新たな拠点となる出荷場「れんこんパーク」の操業が開始された。内部には最新鋭の設備を導入し、一部の作業を完全機械化することに成功している。

「事業の拡大にあたって、人員コストが一番の懸念でした。ある程度規模が大きくなった今、作業の機械化に成功したことは今後の良い足がかりとなったと思います。今後も事業計画の達成に向けて、頑張っていきたいです。」

○誰もが気軽に手が届く「れんこん」を目指して

長期目標の達成に向けてもう一つ精力的に取り組んでいるのは「加工事業」である。法人設立当初はれんこんの認知度が低かったこともあり、『もっと身近にれんこんを食べる機会を増やしたい』という思いがあった。何度も試作を重ね、れんこんの食感や甘みといった特徴を残しつつ、子供や女性でも気軽に食べられる「れんこんちっぷ」が開発された。



↑れんこんパークに新たに導入された自動米投入機（上）と仕分けロボット（下）
これらの作業が全て機械化されたことで、人員の適正配置に繋がっている。



↑収穫後のれんこん。収穫後、当日中にれんこんパークへ運ばれ、出荷調整作業が行われている。



↑洗浄された美肌のれんこん



株式会社 れんこん三兄弟
〒300-0641
茨城県稲敷市浮島1447番地
代表取締役 宮本 貴夫
<https://renkon3kyodai.com/>

JAバンク 茨城

れんこんのシャキシャキとした食感を残しつつ、独特の甘みを引き立たせるために、専門家協力のもと厳選した岩塩を使用。現在は、ピンクソルト味を中心に4種類が展開されている。当会では「れんこんちっぶ」の販路拡大に向けて、県内ホテルや地域小売店へのビジネスマッチングを実施。マッチングが成約し、既に取扱が開始となった店舗ではすぐ売り切れてしまう人気商品となっている。

ただ、引き合いが強くなるほど、生産体制の課題が浮き彫りとなった。「大変な難いことにマッチングの成果もあって、新しい取引先も年々増加しましたが、想定していた以上に発注数が増えてしまっ。製造が間に合わず、出荷を待ってもらう事態になってしまったんです。」

これはまずい、と考えた代表は、令和8年度より冷凍庫やオートフライヤーを導入。通年での生産体制を構築し、今までの2倍となる年間約7万パックの製造が可能となった。「体制が整ったことで、販路拡大の取組についても一層力を入れていく必要がある。引き続きビジネスマッチングに協力いただければ大変ありがたいです。」と話してくれた。

↓当社が誇るれんこんチップ。左から山椒味、ピンクソルト味、のりしお味。山椒味は最新フレーバーであり、山椒の爽やかな風味が食欲をそそる一品となっている



○れんこんの穴から見える未来

当会に対しては、「社内の課題や今後の展望を深く理解してもらっており、融資に限らず、非金融面でもすぐに相談に乗ってくれる。」と期待を込めて話してくれた。

れんこん三兄弟が目指すのは、「れんこんに関わる人が幸せであること」そして「茨城県産れんこんの美味しさを全国へ広めること」である。

当会としても、まだまだ発展していく当社への事業支援を通じて、れんこんの穴から見える未来を共有していきたい。



代表取締役の宮本 貴夫氏。↑インタビューでは会社の成り立ちから今後の展望まで様々な視点から話を伺った

↓れんこんの出荷調整作業の風景。見事な手際で仕分け作業が行われていた

